

「よりよい生活と持続可能な社会の構築に向け、自ら工夫し創造する生徒の育成」

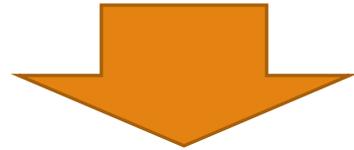
— 問い直しから新しい視点や発想を取り入れる学習活動を通して —

愛知県中学校産業教育研究協議会 研究部



1 はじめに

- 生産年齢人口の減少
- 絶え間ない技術革新等による社会構造や雇用環境の大きな変化



生徒は成熟社会の担い手

「思考力」をはたらかせ、
他者と協働して問題発見し、
新しい発想から解決策を生み出す力が必要



1 はじめに

本年度より

全面実施の学習指導要領

技術・家庭科の目標とする「資質・能力」

『実践的・体験的な活動を通して、

よりよい生活の実現や持続可能な社会
の構築に向け、

課題を解決する力や生活や技術を工夫
し創造しようとする態度を育成すること』



1 はじめに

今まで(平成30年度まで)の研究

「よりよい生活に向けて、
最適解を求め続ける生徒の育成」

成果

- 問題解決後、場面や条件が変わっても、新たな問題の解決に意欲的に取り組もうとする姿が見られた。



1 はじめに

今まで(平成30年度まで)の研究

「よりよい生活に向けて、
最適解を求め続ける生徒の育成」

課題

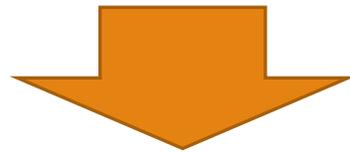
- 一度導き出した解決方法をさらに応用したり、それをもとに新しい解決方法を創造して追究を深化していったりするまでには、至っていない。



1 はじめに

今後(令和元年度以降)の研究

生涯にわたって持続可能な社会を構築する一員として、豊かな人生を歩んでほしい。



問題解決的な学習活動について

問い直す場面を位置付ける必要性



2 研究のねらい

目指す生徒像

よりよい生活の実現と持続可能な社会の構築に向け、既存・既習の知識や考えを応用するだけでなく、新たな視点を取り入れたり、それまでとは違った角度から発想したりして、自ら工夫し創造することができる生徒



2 研究のねらい

自ら工夫し創造する資質・能力が
育まれた生徒の具体的な姿とは

- 様々な問題の中から、技術・家庭科の内容に関する問題を見つけることができる。
- 一度導き出した解決方法を問い直したり、他と議論し、検討を重ね、更なる解決方法を導き出す。



2 研究のねらい

研究の概要

よりよい解決方法について、改めて考えさせる「問い直し」を通して、視点の広がりにより思考の深化を図り、新たな解決策を求められるように単元を構想する。



2 研究のねらい

課題の追究にあたって

- 技術・家庭科の見方・考え方の視点
- 多角的・多面的に考えられるような問題の設定や発問の工夫
- 自分たちの成長や考え方の変容を確認するための「振り返り活動」を充実させる手だて



2 研究のねらい

研究の内容

問題解決的な学習過程による授業実践

解決方法の思考にあたって

- 技術・家庭科の見方・考え方の視点
- 多角的・多面的に考えられるようになる学習課題や発問の設定



2 研究のねらい

「問い直し」を講ずるにあたって

- 自分になかった視点をもたせることで思考を広げたり、他者の考えを基に新たな発想から思考を深めたりする活動の場の設定
- 継続的に思考し続けられる単元の構想



2 研究のねらい

ワークシートの工夫

- 思考を広げたり深めたりする活動を生徒自ら感じられるようにする。

「振り返り活動」の充実

- 自分の考えを整理し、見通しをもってよりよい解決に向かう生徒を育てる。



2 研究のねらい

研究の手だて

- ① 新たな発想を生む単元・題材と
学習課題の設定

ア 問題解決的な学習過程

番号	段階
①Plan (計画)	問題把握・目標設定・計画立案
②Do (実行)	解決策の実行
③Check (評価)	問題の解決に向かっているかを評価
④Action (改善)	評価を基にした改善



2 研究のねらい

研究の手だて

- ① 新たな発想を生む単元・題材と
学習課題の設定

イ 大単元・小単元・授業

大単元 1					
小単元 1			小単元 2		
授業 1	授業 2	授業 3	授業 4	授業 5	授業 6

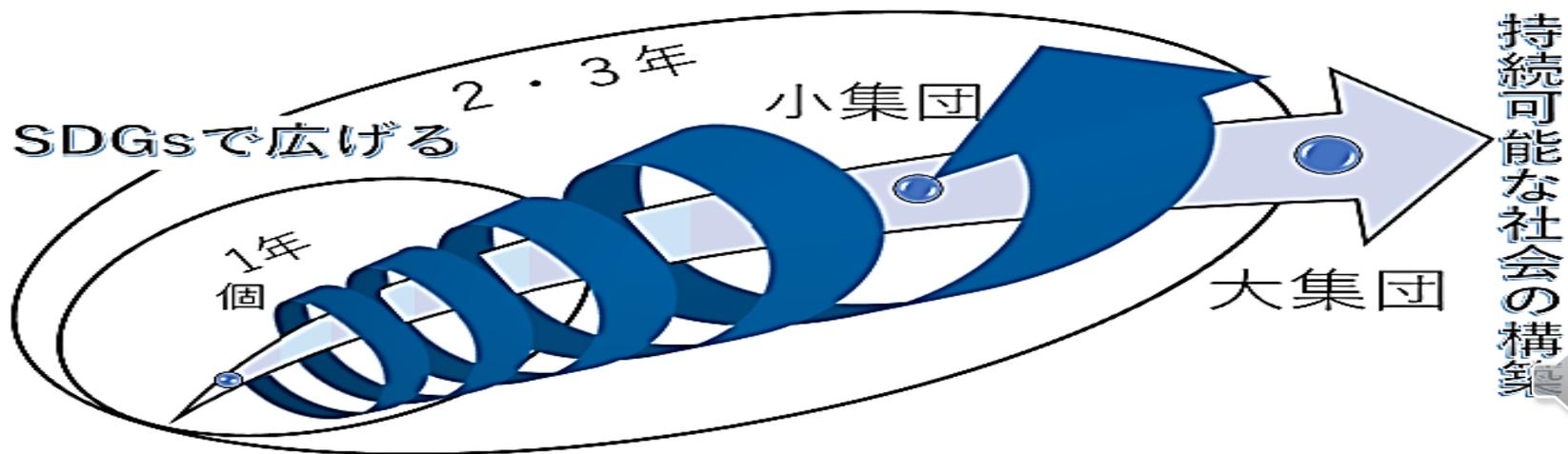


2 研究のねらい

研究の手だて

- ① 新たな発想を生む単元・題材と
学習課題の設定

ウ 問題解決的な学習の目標設定の
広がりと深まり



2 研究のねらい

研究の手だて

- ② 見方・考え方を通して
工夫・創造する資質・能力を育む
問い直しの場面の設定

ア これまでの問題解決的な学習過程 の課題



2 研究のねらい

研究の手だて

- ② 見方・考え方を通して
工夫・創造する資質・能力を育む
問い直しの場面の設定

イ 問い直す内容

『何を問い直すのか』

『どういった視点から問い直すのか』について具体的にする必要あり



2 研究のねらい

研究の手だて

- ② 見方・考え方を通して
工夫・創造する資質・能力を育む
問い直しの場面の設定

イ 問い直す内容

- 技術分野の見方・考え方
- 家庭分野の見方・考え方
- SDGsの17の目標等



2 研究のねらい

研究の手だて

- ② 見方・考え方を通して
工夫・創造する資質・能力を育む
問い直しの場面の設定

ウ 問い直しの場面の例

- 授業の振り返りをもとにした生徒の発言
- 新しい価値観や教材との出会わせ
- 教科の見方・考え方とSDGsからの分析



2 研究のねらい

研究の手だて

③ 振り返り活動

振り返り活動で押さえる点

- 生徒自身の思考の変容が分かる
- 活動を記録として残せる
- 解決方法を教科の見方・考え方に照らし合わせて自己評価できる
- 振り返り活動が次の時間に生かすことができる
- 振り返りの場をそれぞれの学習場面に適したものに生かすことができる



2 研究のねらい

研究の手立て

③ 振り返り活動

振り返りの活動例

例1 ワークシートによる活動

自分の考えを可視化できるように意識したワークシートを準備する

- 文章表現に加えて、イラストや図表、レーダーチャートを取り入れる。



2 研究のねらい

研究の手立て

③ 振り返り活動

振り返りの活動例

例2 アンケート調査

自分の考えを可視化できるように「自己評価アンケート」を実施する

- 授業の初期と後期で比較して、生徒の目的意識の明確化を図る。

